

## JRC2023 参加報告

札幌医科大学附属病院 大橋芳也

皆さんこんにちは

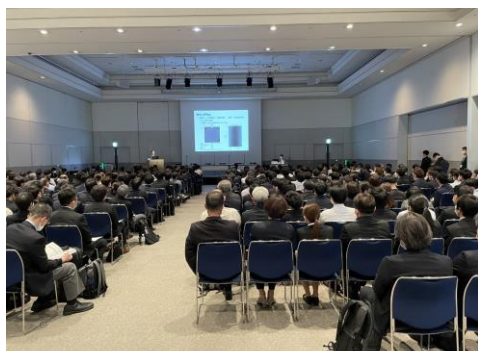
札幌医大病院の大橋です。

4月13～16日に横浜にて開催された日本放射線技術学会総会（JRC2023）に参加してきましたので報告させていただきます。

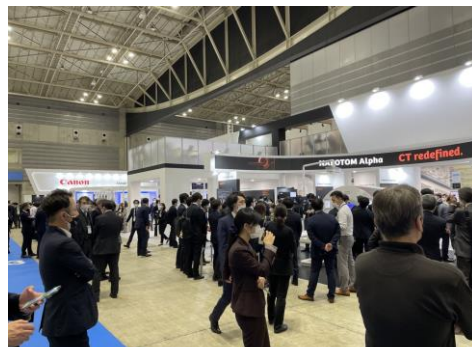
気温は20度前後といったところでしょうか。北海道とは違いとても暖かく、横浜の海風が心地よかったです。新型コロナが落ち着いてきたこともあり、学会初日から非常に多くの方が参加されていたように思います。特にCTのセッションは、会場に入れにくいくらい多くの参加者が見受けられました。Deep learning再構成、超解像PIQEやDual-energy、話題のフォトンカウンティングCTの演題が目立ち、物理評価や臨床的な有用性が多く報告されていました。ランチョンセミナーでは、国産装置として初のCanon社製フォトンカウンティングCTがお披露目になりました。臨床試験も着々と進んでいるようで、国内リリースされる日も遠くないだろうと個人的に思います。臨床画像も拝見しましたが、非常に鮮明な画像でした。収集スライス是最も薄い0.2mm厚を実現し、なおかつエネ

ルギー分別を包括している Aquilion Precision と Aquilion ONE / PRISM の”いいとこ取り”をした理想の CT であろうと想像します。従来 CT のようなシンチレータがなく X 線を直接電気信号に変換するため、被ばく低減、空間分解能の向上、マルチエネルギー分別などなど、多くの期待が持てる装置だと感じました。また、Aquilion Precision については Deep learning 再構成 AiCE に新たに Brain CTA、Inner ear、Bone が追加されたようです。各々目的の領域にチューニングされた AI 再構成であることがわかる画像で、実際に使ってみたくなるような画質でした。今回、私は腹部血管 3DCT の静脈位相のタイミングを個別化する方法とその有用性を報告させていただきました。現在、腹部領域において腹腔鏡下およびロボット支援下手術が拡大しつつあります。今まであまり注目されてこなかった静脈は、動脈よりも脆弱なため狭い視野の中で行われる鏡視下手術中の血管損傷のトラブルが少なくありません。そのため、静脈走行のバリエーションを事前に把握しておくことは手術にとっても役に立ちます。今回、動脈相だけでなく静脈相においても患者ごとの撮影タイミングを調整することで静脈の造影効果を上昇させ 3DCT の描出を明瞭にする方法論を提案させていただきました。会場から様々な質問やレスポンスをいただき、改めて対面で行う学会の

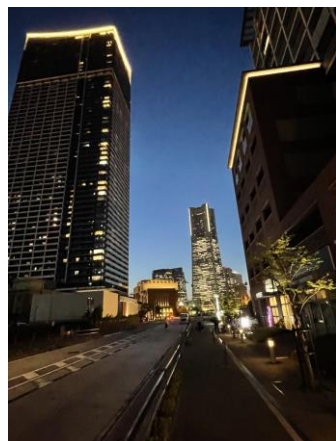
良さを感じました。今後更なるブラッシュアップに努めたいと思います。



教育講演会場 AM8:00



ITEM 会場



夜の横浜